



# あすなる

有田市立保田小学校 校長室便り

令和 2 年 9 月 18 日 発行

第 12 号

(文責 校長 中西和美)

## ☆当たり前のことが当たり前に見える子に！☆

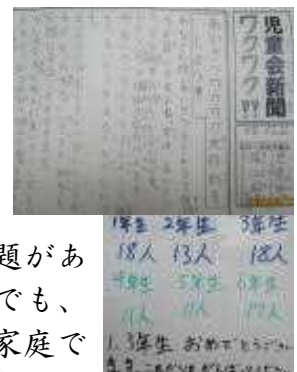
日差しはまだ夏の影を残しているものの秋を告げる風情も出てきました。さて、学校での子どもたちのようすを見てみると、当たり前のことをコツコツと取り組む事の大切さを痛感します。まず、朝の当たり前とは何か考えてみました。『服を着替える・歯を磨く・ご飯を食べる』でしょうか。次に、登校する前の当たり前を考えました。『帽子をかぶる・制服を着る・名札をつける』でしょうか。では、登校時の当たり前とは何でしょう。『歩いて学校へ来る・右側を歩く・出会った人と挨拶をかわす』になるでしょう。他にも、学校での集団生活に伴う当たり前を考えてみました。今であれば『マスク着用・手指の消毒・人との距離を保つ』になります。また『勉強をする・友だちを理解する・精一杯活動する』も大切なことだと思います。



人によって当たり前も様々かと思いますが、当たり前のことをコツコツ取り組むからこそ培われていく力があるはずで。まずは登校時の当たり前『歩いて学校へ来る・右側を歩く・出会った人と挨拶をかわす』ことができるようになって欲しいと願います。おうちの方でも、学校や家庭生活での当たり前について、一度、話し合ってみてください。

## ☆あいさつワクワク大作戦！～児童会活動～☆

児童会役員から、全校児童のみんなへあいさつワクワク大作戦の提案がありました。これは、「進んで大きな声で挨拶してくれた人を数える」「一番多かった学年を表彰する」という取組で、10日(木)と14日(月)の2日にわたり行われました。本校には、児童会新聞に載せてくれていたように「挨拶をしても声が小さく、進んで挨拶する人が少ない」という課題があります。児童会では、「挨拶は、してもされても気持ちいい。少ない一言でも、相手を笑顔にすることができる」と、この取組を考えてくれました。ご家庭でも「朝起きたら顔を見て挨拶をする」など、これを機会にぜひ気持ちの良い挨拶について考え、実践してみてください。



## ☆出前授業 4年生「紀州大水害の体験談を聞こう」・9/9(水)

本校の学校運営協議会委員、老人会会長であります岡崎武子様、1953年7月18日前後の集中豪雨により起きた水害の体験を拝聴しました。早く逃げることの大切さなど、命あつての私たちであることをかみしめながらお話を聞かせていただきました。



### ..... 授業を終えて(一部抜粋) .....

- ・みんなの協力で助かったことや、早めにはげることが大切だとわかりました。もっと災害のことを知って、もしものときに備えることや逃げる準備をしておきたいと思いました。
- ・水害は本当に恐ろしいんだと思いました。普通の町に戻るのに10年もかかるなんて、すごくびっくりしました。まわりのみんなのおかげで苦労しなかったと聞いて、大人は優しいと思いました。
- ・話を聞いただけで怖かったです。水害が起きた時のために役立てたいです。もうこのようなことがないように願います。
- ・水害が起きたらこんなに大変なことになるんだなと改めて思いました。家に帰ったら、どこに逃げたらいいのかいっぱい考えたいです。
- ・大変だったんだなと思いました。岡崎さんのように冷静に避難して、命を守りたいです。